



MARUICHI STEEL TUBE LTD.

01 X 100
MARUICHI X HUNDRED



丸一鋼管株式会社 企業案内

丸一鋼管株式会社は、
1947年に大阪で設立しました。

それから数十年。

小さな自転車部品の製作所を前身とする私たちですが、
現在は、丸角・大小さまざまな鋼管を国内外でつくっています。

日本の経済や街づくりの発展とともに、
私たちの成長はあります。

私たちが製造する鋼管は、
建物や自動車をはじめとして、道路照明や家具など
日本中・世界中の様々なところでご愛用いただけるようになりました。

これから、私たちが目指していくのは100年続く企業です。

1から始まった事業を〇1(丸一)の力で1〇〇にする。
私たちの挑戦は、これから始まります。

CONCEPT

O1 X

MARUICHI X

目次

- 01 CONCEPT | コンセプトメッセージ
- 02 CONTENTS | 目次
- 03 MESSAGE | 企業メッセージ
- 04 BUSINESS FIELD | 経営理念・事業領域・丸一鋼管の強み
- 05 TOP MESSAGE × 1〇〇 | トップメッセージ
- 07 OUR VISION × 1〇〇 | 100年企業へ向けたビジョン
- 09 SUSTAINABILITY × 1〇〇 | 持続可能な発展への取り組み
- 11 GOVERNANCE | 組織体制・コンプライアンス
- 12 OUR STRENGTH | 丸一のものづくり
- 13 WHERE IS MARUICHI ? | こんなところに丸一鋼管
- 15 GLOBAL SITES | グローバル体制
- 17 OUR DREAMS × 1〇〇 | 〇1×1〇〇の夢
- 19 HISTORY | 沿革
- 21 ABOUT | 各社・拠点情報

100

HUNDRED

CONTENTS

どこにでもある、 たったひとつの会社に。

Everywhere, MARUICHI

あなたのそばで見つけてください。

私たちがつくる鋼管は建物や自動車、道路照明、家具など
生活のあらゆるところに使われています。

日本で見つけてください。私たちの拠点は、日本全国にあります。

世界で見つけてください。私たちの仲間は、世界中にいます。

世界中の幸せを骨組みから支える、どこにでもある、たったひとつの会社。

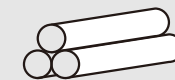
私たちは、生活のどこにでもある、日本のどこにでもある、世界のどこにでもある
たったひとつの会社になりたい。

常に未来へ前のめりに。
ものづくりの未来に希望を持ち、
新しい技術に挑戦しながら、
創造的であり続けます。

経営理念

- わが社は、パイプのリーディング・カンパニーとして、優れた製品を供給し顧客の信頼に応えることにより、社会に貢献することを使命とします。
- わが社は、人間尊重を基本とし、取引先、社員、株主など、すべての人々を大切にします。
- わが社は、社員一人一人の知恵と情熱と行動により、製品の信頼性、技術力、販売力を向上させ、将来に向けての成長エネルギーと新しい価値の創造を推進します。
- わが社は、社員にとって、その人生を託すにふさわしい、素晴らしい、夢にあふれた会社であり続けます。

事業領域



鋼管事業

帯鋼(コイル)を原料に、高周波溶接方式でパイプ状に加工、お客様のニーズに応じて様々なサイズ・用途の鋼管を製造しています。

- 溶接鋼管
 - ・一般構造用鋼管
 - ・建築構造用鋼管
 - ・機械構造用鋼管
 - ・農芸用鋼管
 - ・配管用鋼管
 - ・電線管および電線管附属品

- ステンレスシームレス鋼管
 - ・配管用鋼管
 - ・BA精密細管
 - ・特殊管



表面処理鋼板事業

鋼板を酸洗し、冷間圧延、溶融亜鉛めっきで仕上げを行い、耐食性と外観に優れた鋼板を製造しています。
特に、溶融55%Al-Znめっき(AL-Z55)は耐食性と防食性の双方に優れ、耐久性を飛躍的に向上させます。



特品事業

鋼管製造で培った技術を活かし、照明柱・標識柱などの鋼構造物の設計・販売を行っています。

- ・照明柱
- ・標識柱
- ・ETCガントリー
- ・旗竿
- ・鉄塔 他

強み

01 需要地生産体制

全国各地に生産販売拠点を設けることで、お客様のニーズに柔軟に応えます。日本では北海道から九州まで、海外にも工場を展開。流通コストの削減にも貢献しています。

04 自主独立経営

他社グループに属することなく、独立した経営を行っています。柔軟な原材料の調達体制・製品の販売体制のもと、強固なサプライチェーンを構築しています。

02 業界シェアNO.1

1930年代にスタートした鋼管製造。時代の流れと共に成長し、現在は、国内溶接鋼管業界でシェアNO.1を獲得しています。鋼管のリーディングカンパニーとして、ユニークな生産販売体制を確立しています。

05 健全な財務体質

高い自己資本比率を保ち、着実に黒字経営の歴史を積み重ねています。新たな事業領域への進出や生産性向上に繋がるシステム・設備の導入等への投資に注力しています。

03 グローバル展開

日本という市場を飛び出し、アメリカ・メキシコ・ベトナム・インド・インドネシア・中国・フィリピンの7か国にグループ会社を持ち、高品質の製品を世界に発信しています。

06 人材の育成

社員一人当たりの生産性を追求し、より多くの利益を還元するために社員一人ひとりの業務の範囲を広げ、スキルアップを前提とした社員教育を行っています。

これからの30年、未来を拓くカギは「柔軟性」

Top message

Flexibility

丸一鋼管は2018年に設立70周年を迎えました。

100年続く企業であり続けるために、

「柔軟性」をキーワードに新たな挑戦を続けてまいります。

会長挨拶

代表取締役会長兼CEO

鈴木 博之

今日まで丸一鋼管は、お客様、株主様、お取引先様、地域の皆様、従業員に支えられ、70年以上の歴史を重ねて参りました。あらためまして皆様には、心より御礼申し上げます。特に株主の皆様には配当を含め株主還元対応を今後も進めてまいります。これから、私たちを支えてくださっているすべての皆様に尊重し、感謝の姿勢は変えることはありません。

一方で、近年は企業の貢献の対象はより広く、SDGsをはじめとした「社会課題解決への貢献」が重要であると認識されています。私たちが本社を置く大阪では、2025年に大阪・関西万博の開催も決定しました。万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。一人ひとりのいのちが輝く、豊かな未来社会を創り出すための実験場が目標です。この場で採用された新たな技術やサービスを含めた取り組みが世界中に展開されることにより、地球規模で「持続可能な社会」を築くことを目指したものとなることでしょう。丸一鋼管も大阪・関西万博のオフィシャルサポーターです。未来に向けてどのように貢献できるか。これからしっかり考え、取り組んでいく所存です。

丸一鋼管が100年企業を目指す上での今までの70年とこれからの30年。変化のスピードが今まで以上に加速するのは明らかです。AI・IoT・ロボット技術など、瞬く間に世界は変わっていくでしょう。30年先を具体的に予想することは難しいですが、「変化に柔軟に対応できる企業」として準備をしていくことはできます。変化に対応できる「人」を育てていくこと。挑戦できる「環境」を用意すること。私たちはこれから、未来に向けた基盤づくりをしていきます。鋼管に特化した事業を70年続けてきましたが、現状に満足せず常にイノベティブかつクリエイティブに、次世代と共に歩んでいきたいと考えています。サステナブルな企業として、皆様と今の関係を維持発展できるように努めますので、これからもお力添え宜しくお願い申し上げます。

社長挨拶

代表取締役社長兼COO

吉村 貴典

自転車用部品の製造から始まり、幅広い用途でのパイプの製造へと事業を変化させてきた歴史の中、多くの方々にお世話になってきました。厳しい時代もありましたが、大変な局面こそ皆様に支えられ、今日があると感じております。誠にありがとうございます。

これまで、私たちは「高品質の製品をお客様にお届けすること」を一番に考え、取り組んでまいりました。その中で、お客様、お取引先の皆様や従業員との関係づくりも大切にし、信用を積み重ねてきたつもりです。しかし近年では、ステークホルダーだけに配慮した経営をする時代ではなくなってまいりました。もっと視野を広げ、社会全体、地球の未来を見据えて事業活動を行うことが求められる時代へと移り変わろうとしてきています。明るい未来を創るため、丸一鋼管が積極的に社会に関わっていく姿勢が、今求められている一つの変化であり使命だと、身をもって感じております。

変化の渦中、求められるのは「柔軟性」です。歴史を振り返ると、自転車からパイプへと、変化の舵を切った先人の決断力と偉大さを改めて感じます。当社の発展と共に歩んできた中で、自分自身ものづくりの奥深さや面白さを感じており、この先も鉄という素材の可能性を追求し、こだわりを持って社会で求められるパイプをつくっていきたいと考えます。耐食性や強度のより高いパイプや、新たな用途のパイプづくりなど、様々な角度で挑戦を続けてまいります。

しかし一方で、価値観の多様化が進む世の中ですから、当社もこれまで取り組んできたこと以外にも目を向けていく必要があります。新事業やビジネスチャンスの兆しをつかむためには、常にアンテナを張り、様々な事に関心を持ち、柔軟な発想をしていくことが大切です。当社の中でもそういった風土を醸成するために、従業員の意識の向上に努めていきます。柔軟でありながら、決めたことをやり抜くという意味では頑固に、当社グループ丸一となって共に未来を創っていく所存です。

MARUICHI 2030 VISION

どこにでもある、
たったひとつの会社に。

Everywhere, MARUICHI

100年企業を見据えた第一歩として、
2030年をめざした持続可能な発展のためのビジョンを策定しました。
これまで築いてきたビジネスモデルや価値創造のプロセスに加え、
今後予想される周辺環境の変化を見据えた事業戦略を立てることで、
すべてのステークホルダーの皆様とともにより良い社会を目指していきます。



SDGs

SDGs(Sustainable Development Goals)は、2015年9月にニューヨーク国連本部において193の加盟国の全会一致で採択された国際目標です。2030年を目指して、世界全体で気候変動や格差是正などの幅広い社会問題を解決し、誰ひとり取り残さない、明るい未来を創るための17のゴールと169のターゲットで構成されています。

先進国も途上国もすべての加盟国が関わって解決していく、包括的な目標です。

「持続可能な開発目標(SDGs)とは」



丸一鋼管が目指す社会

すべての人が安心して豊かな暮らしを送ることができる持続可能な社会



持続可能な成長のためのポイント

事業の深化と進化による収益性向上

・デジタルトランスフォーメーション(DX)の導入

- 最先端技術(AI・IoT等)の具体的な活用による組織改革
- スマート工場の構築
 - 蓄積した製造データを生産設備に反映し、職人技を機械化
 - ⇒鋼管の品質の更なる安定化
 - 生産ラインで直接作業する仕事の一部を自動化
 - ⇒製造現場の安全性強化
- 製造・販売情報管理の効率化
 - 受発注業務から製造、販売までの一連の製品情報の効率的な管理とタイムリーな情報の共有による業務の効率化
 - ⇒二重入力など非効率作業の削減による生産性向上

・オープンイノベーションの推進

- 鋼管事業を軸としたグループ間や社外との交流強化を通じて、異なる素材の知識・製造ノウハウを新たに取り入れ、既存の自社技術とのシナジー効果を発揮
 - ⇒新産業向け需要の開拓
 - ⇒これからの社会に必要とされる素材の追求と新製品の開発(より強く、長持ち、環境にやさしい鋼管づくり)

・社会課題解決を意識したグローバル展開の加速

- 地域の未来を支える製品ラインナップと持続可能なサプライチェーンの構築による事業拡大
 - ⇒経済成長・生活水準の向上を目指す海外エリアにおける持続的かつ実効的な社会インフラの実現

新領域への果敢な挑戦

・新たな分野への挑戦

- 未来視点の新ビジネス・新規事業
- 製品ライフサイクル全体を視点に取り入れた事業戦略

目指すべき姿

・イノベーションを生む組織への変革

- ・ダイナミックな変革を実現するイノベティブでレジリエンスの高い組織づくり
- ・変化に柔軟に適應する組織づくり

重要課題 (マテリアリティ)



サステナビリティ基本方針

OUR VISION X 100

持続可能な発展への取り組み

Sustainability



サステナビリティ基本方針

丸一鋼管グループは、「顧客の信頼に応えることにより社会に貢献し、人間尊重を基本としてすべての人々を大切にする」という経営理念のもと、すべてのステークホルダーに配慮し事業活動を行うことによって、持続的な成長の実現を目指します。自らの持続的な成長とともに、持続可能な社会の実現に貢献するために、以下の方針に沿って重要課題（マテリアリティ）に取り組む、企業価値の向上を目指します。

企業統治

丸一鋼管グループは、株主の権利を尊重し経営の公平性・透明性を確保するとともに、取締役会を中心として株主に対する受託者責任・説明責任を果たし、同時に経営ビジョンの実現に向けて、コーポレートガバナンスを経営上の重要課題と位置付け、迅速かつ的確な意思決定および監督機能の強化を図ります。また、中長期的な企業価値向上と経営の健全性維持のため最良のコーポレートガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組みます。

公正な事業慣行

丸一鋼管グループは、商取引にあたっては、正しい判断と節度を持って行動し、誤解や不名誉な評価を受けることのないよう、不当な利益を与えたり、得たりすることはありません。商取引は、製品かサービスかを問わず、誠実で正当な交渉に基づき取引内容を公平に比較・評価したうえで正しい手続きを踏んで進めます。また、丸一鋼管グループは賄賂を認めず、反社会勢力との関係を断絶し、あらゆる形態の腐敗に関与しません。

人権

丸一鋼管グループでは、間接的な関与を含むあらゆる人権侵害行為を未然に防ぎます。また、性別や国籍等の個人の属性に関係なく、社会的に弱い立場や危機的状況にある人を含むすべてのステークホルダーの人権を守ります。人権を侵害する事業体に対する製品の提供や購買活動を行わず、人権を侵害された人を救済するための措置を整備します。

コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

丸一鋼管グループは、さまざまな国、地域社会と共に発展・成長を遂げることを目指しています。事業を通じた貢献として、国や地域の多様なニーズに応じた製品を安定的に供給することで、産業のプラットフォームの構築と発展に寄与します。また、雇用機会の拡大、納税等による利益の再分配を通じ、豊かな社会の実現に寄与します。事業を行うにあたっては、環境・社会負荷を削減するよう配慮することで、事業の持続可能性を追求します。また、コミュニティの一員として社会課題解決への意識を持ち、社会貢献活動を積極的に展開することで、同じコミュニティに属し、志を共有する人々と積極的にエンゲージメントを図ります。

顧客に対する責任

丸一鋼管グループでは、エンドユーザーに与える影響を配慮しつつお客様のニーズに適合した安全かつ高品質な製品を供給し、ご相談に誠実、迅速、かつ的確に対応するよう努めます。また、製品に関する情報提供を適切に行い、あらゆるお客様のさらなる満足の確保、維持、向上に努めます。さらに、各国の法およびその精神を遵守し、お客様をはじめ事業活動に関わる全ての人々の個人情報の保護を徹底します。

環境

丸一鋼管グループでは、将来世代に住み良い環境を提供するため、法令遵守による社会的責任の遂行を基本として、より一層の地球環境保護に貢献します。リサイクル性の高い鉄を使用した製品の提供を通じて循環型社会の一端を担うとともに、生産活動における大気・水質・土壌等の環境汚染を予防します。また、日々技術追求し、エネルギー、水、原料などの資源の効率的な活用のため努力します。これらに関連する目標、目的を設定し継続的な改善活動のためのマネジメントシステムを整備します。

労働慣行

丸一鋼管グループでは、「人間尊重」の理念のもと、多様な社員が平等にディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）に取り組むことで、人生を託すにふさわしい、夢にあふれた会社を実現します。そのために、個々の事情にあったワークライフバランス、多様で柔軟な働き方を実現します。高い安全衛生基準のもとで1人1人の能力開発を促進し、従業員が心身ともに安全・健康に働ける環境を整備します。また、従業員代表との対話の機会を設け、健全な労使関係を構築します。

01 環境への配慮

◎ 環境への配慮

企業利益の追求だけではなく、持続的な企業価値の向上をめざして環境に配慮した生産活動を行っています。メガソーラー事業による再生可能エネルギー活用への貢献や、製造設備の省エネタイプへの転換、詫間工場における使用ガスのLNG（液化天然ガス）転換などの温暖化防止施策を実施しています。



02 多彩な人材の活躍

◎ 人材・働き方

グローバル化や少子高齢化が進む現代において企業競争力を高めるため、多様な人材が活躍できる環境を整えています。育児・復職支援制度の拡充や研修の実施を通じた女性活躍推進のほか、海外事業の拡大に伴い外国人留学生や外国人技能実習生の受け入れ、海外研修、海外外向者を対象にしたグローバルビジネス研修などを実施しています。



03 安全への対応強化

◎ 人材・働き方

社員の安全なくして、丸一鋼管のもののづくりは成り立ちません。わたしたちは、「安全は自分のため、家族のため。」を心にとめながら、日々の仕事に取り組んでいます。実際の製造現場を視察しながらの安全生産会議や、独自に導入した危険体感施設を使用した研修など安全啓蒙活動を重視しています。



04 社会貢献活動

◎ 社会貢献活動

毎年、配当実施後の単体純利益の0.5%程度を社会貢献活動を通じて社会に還元すること目標として、国内外で支援を行っています。国内では、教育、文化、スポーツ、医療、環境保護などの活動、新興国では、健康医療、教育などをそれぞれ支援しています。



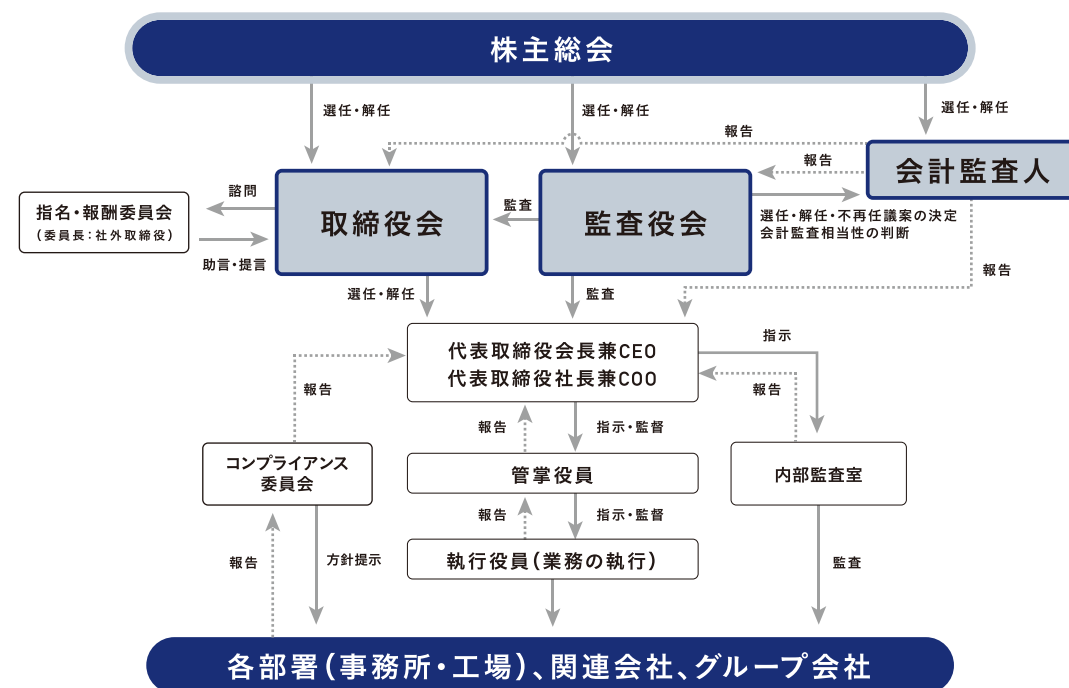
組織体制・コンプライアンス

Governance

ガバナンス体制

◎ ガバナンス

100年企業を目指すにあたり、継続的な成長と企業価値の追求は欠かせない要素です。丸一鋼管では、透明で公正な意思決定を行うべく、以下のガバナンス体制を整えています。



コンプライアンスマニュアル

企業活動を永续させるためには、健全な企業活動によって利益を生み出すことが重要です。丸一鋼管の従業員一人ひとりがコンプライアンスを理解するために、コンプライアンスマニュアルにおいて遵守事項を制定し、コンプライアンス委員会を設置して、その実践を支援・指導しています。



丸一のものづくり

Our strength

「いいパイプをつくろう」

これは、私たちの70年を超える歴史の中で、

脈々と受け継がれている言葉です。

お客様に「丸一の製品が一番良い」と言って頂く。

そのためのプライドが、

作り手である私たちの心には根づいています。



01 需要地生産体制

私たちの強みの一つは、需要地生産体制を確立していること。各地域の特色に合わせた地域密着型の生産・販売拠点を構え、お客様と近い距離で短納期の要望に対応できる体制を整えています。災害等の緊急時にも、必要な生産を全国各地でカバーすることが可能です。ご要望があった時、すぐに駆けつけ、課題を解決する。そのスピード感がひとつの価値となっています。



02 幅広い品揃え

「マルイチのパイプは使い勝手が良い。」そういっていただけるように、パイプの総合メーカーとして多品種生産・小ロットからの販売にも対応しています。径の小さいパイプから大きなパイプまで、柔軟な製造スキームのもと、「いいパイプをつくってお客様に届けたい」という私たちの情熱は、これからも尽きることはありません。



品質方針

- 当社は、パイプのリーディングカンパニーとして、優れた製品を供給し、顧客の信頼に応えることにより、社会に貢献することを使命とします。
- 社員一人一人の知恵と情熱と行動により、製品の信頼性、技術力、顧客満足度、販売力を向上させるために、以下の活動を行います。

- 目標設定 品質、業務の質および、品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善するために、活動目的および、活動目標を設定し活動します。
- 定期的な見直し 本品質方針、活動目的および活動目標は定期的な見直しを行います。
- ルールの遵守 関連する法規、規格および社内のルールを遵守し、顧客要求事項を満足させる企業活動を行います。
- 意識の高揚 本方針を、全社員に周知し、社員一人一人の意識の高揚を図ります。



OUR STRENGTH

どこにでもある、たったひとつの会社に。
Everywhere, MARUICHI

あなたの生活のそばに、 私たちの製品が使われています。

Where is MARUICHI?

■ オフィス（構造用鋼管・電線管）

身近な机や椅子などの家具にも、マルイチのパイプが使用されています。電線ケーブルを保護する電線管も、マルイチの得意分野です。

■ 水素ステーション（ステンレスシームレス鋼管）

水素ステーションにおいてシームレス鋼管が高圧ガス配管として使用されており、環境に優しいエネルギーの普及に貢献しています。

■ 建設現場（足場管）

建設現場で足場として使用されています。屋外での使用に耐える強度が魅力です。

■ 店舗（構造用鋼管）

コンビニなどの陳列棚にディスプレイ材として使用されています。

■ ビニールハウス・農地（農芸用鋼管・構造用鋼管）

錆に強い独自の表面加工を施し、様々な野菜や果物を栽培するビニールハウスに使用されています。効率的な農業のために欠かせない農業機械や、建設現場で活躍する建設機械にも、パイプが使用されています。

■ 工場・物流倉庫（構造用・配管用鋼管）

構造用鋼管は、自動倉庫や倉庫内のパレット・コンベアローラーに使われています。配管用鋼管はガス管や水道管として活躍しています。

■ 半導体製造設備（ステンレスシームレス鋼管）

ステンレスシームレス鋼管は、半導体製造設備に使用され、ICT、自動運転などの先端技術を支えています。

■ 自動車（構造用鋼管）

ヘッドレストやシートフレームなど様々な部品に加工され、自動車に組み込まれています。

■ 発電所（ステンレスシームレス鋼管・電線管）

特に高い強度が求められる発電所では、高品質なステンレスシームレスパイプが給水加熱管などとして使用されています。

■ 建造物・住宅・学校（マルイチコラム・鋼管杭）

マルイチコラムは、中低層の建物の柱材として使用されています。鋼管杭は住宅などの基礎に打ち込まれ、建築物の耐震性を高めます。ほかにも、住宅の制御フレームとしてもパイプが使われています。

鋼管杭



あなたの街でもマルイチポールを見つけてください

■ 道路（マルイチポール・構造用鋼管）

マルイチの照明柱、標識柱、ETCガントリーなどは、全国で明るく安全な街を支えています。道路脇のガードポストにも、マルイチのパイプが使われています。

WHERE IS MARUICHI?

WHERE IS MARUICHI?

Everywhere, MARUICHI

日本を飛び出し、世界の需要に応えるため、私たちの仲間がいます。

海外の 丸一鋼管グループ各社

Global Sites

INDONESIA | インドネシア

PT.Indonesia Steel Tube Works (ISTW)

■ Jakarta Plant



12 Tel : + 62-21-460-0991
Jl. Rawa Sumur I/No.1, Kawasan Industri Pulogadung, Jakarta 13940, Indonesia

■ Cikarang Plant



13 Tel : + 62-21-505-55621
Greenland International Industrial Center(GIIC)Block AE No.7 Kota Deltamas Cikarang Pusat Bekasi 17530-WEST JAVA-INDONESIA

■ Semarang Plant



14 Tel : + 62-24-760-0647
Jl. Simongan 105, Semarang, 50148-CENTRAL JAVA-INDONESIA

INDIA | インド

MARUICHI KUMA STEEL TUBE PRIVATE LIMITED (KUMA)

■ MANESAR PLANT



09 Tel : + 91-124-4213059
Plot No.27, Sector-2A, IMT Manesar, Gurgaon-122050 (Haryana), India

■ BANGALORE PLANT



10 Tel : + 91-80-46613200
Toyota Tusho Auto Park, Plot No.33&34, Bidadi Industrial Area, Ramanagara Taluk & District, 562-109, India

■ GUJARAT PLANT



11 Plot No.28 to 45, GIDC Industrial estate, Japanese Industrial Zone, Mandal, Ahmedabad, Gujarat India.

U.S.A. | アメリカ

■ Maruichi American Corporation (MAC)



01 Tel : +1-562-903-8600
11529 Greenstone Avenue, Santa Fe Springs, CA 90670-4697, U.S.A.

MEXICO | メキシコ

■ MARUICHIMEX S.A. de C.V. (Maruichimex)



04 Tel : + 52-449-910-7040
Circuito Japon 112, Parque Industrial San Francisco San Francisco de Los Romo, Aguascalientes, C.P.20304, Mexico

VIETNAM | ベトナム

■ Maruichi Sun Steel Joint Stock Company (SUNSCO)



06 Tel : + 84-274-3742777
DT743 Rd., Dong Tac Quarter, Tan Dong Hiep Ward, Di An County, Binh Duong Province, Vietnam

■ Maruichi Sun Steel (Hanoi) Co., Ltd.



07 Tel : + 84-211-3582877
Binh Xuyen Industrial Zone, Huong Canh Town, Binh Xuyen District, Vinh Phuc Province, Vietnam

■ J-Spiral Steel Pipe Co., Ltd.



08 Tel : + 84-251-351-1410
Slope47, Highway51, Tam Phuoc, Bien Hoa City, Dong Nai Province, Vietnam

■ Maruichi Leavitt Pipe & Tube, LLC (Leavitt)



02 Tel : +1-773-239-7700
1717W, 115th Street, Chicago, IL, 60643, U.S.A.

■ Maruichi Oregon Steel Tube, LLC (MOST)



03 Tel : +1-503-737-1200
8735 North Harborgate Street, Portland, Oregon, 97203-6363, U.S.A.

■ Alhametal Mexico S.A. de C.V. (Alphamex)



05 Tel : + 52-449-158-0301
Municipio De Tempezala 112, Parque Industrial Del Valle De Aguascalientes, San Francisco De Los Rome, Aguascalientes, C.P.20358, Mexico.

CHINA | 中国

■ Maruichi Metal Product (Foshan) Co., Ltd. (MMP) Head Office



15 Tel : + 86-757-8210-8558
Huabao Nan Road, Chengxi Industrial Park, Foshan National HI-TECH, Industries Zone, Chancheng District, Foshan City, Guangdong Province, China

■ Maruichi Metal Product (Foshan) Co., Ltd (MMP) Wuhan Branch



16 Tel : + 86-27-8485-2881
No.458 Hannan Avenue, Shamao Town, Hannan District, Wuhan City, Hubei Province, China

■ Maruichi Metal Product (Tianjin) Co., Ltd. (MMP)



17 Tel : + 86-22-5986-8898
Zhongnan three street, west Tianjin economic development zone area, Tianjin City, China

PHILIPPINES | フィリピン

■ MARUICHI PHILIPPINES STEEL TUBE INC. (MPST)



18 Tel: 63-995-170-7539
Phase 2B, B3, L2-B, Lima Technology Center, Brgy. Bugtong na Pulo, Lipa City, Batangas, Philippines 4217

01×100の夢 夢を持てる会社へ。

Our dreams

社員が考える **100の夢** を公募しました。

社員が夢を持ち、イキイキと働ける企業になりたい。

そんな想いから、社員の夢を公募しました。

働く上での夢でも、家庭でも、個人のことで構いません。

明るい未来を想像できる環境を守り、育てていきたいと思います。



OUR DREAMS X 100

OUR DREAMS X 100

OUR DREAMS

1920

- 1926年
自転車部品製造の丸一製作所を発足。



▲丸一製作所時代のドローパーベンチのメインギア 直径約1.8m

1930-40

- 1936年
鋼管の自家製造に着手。



▲皇室献上用に製作された自転車ハンドル

- 1940年
社名を「丸一鋼管工場」と改称。自転車部門を分離し鋼管専業メーカーとなる。
- 1947年
株式会社丸一製作所を設立。本社を大阪市東住吉区(現・平野区)加美橋町に置く。
- 1949年
橋工場を開設。

1950

- 1954年
販売窓口として大阪出張所を開設。
- 1956年
大阪出張所を改組し、のちに丸一鋼板株式会社(現・連結子会社)となる株式会社吉村商店を創立。
- 1957年
本社を大阪市東住吉区(現・平野区)加美神武町に移転。大阪工場を新設。



▲当時の本社(平野区)社屋落成披露当日

- 1958年
東京事務所を開設。米国アビー・エトナ社製の電気溶接製管設備を導入し、それまでのガス溶接方式から電気溶接方式による鋼管製造に転換。



▲アビー・エトナ社製 低周波抵抗溶接製管機

- 1959年
橋工場を分離して小径管専門の橋工業株式会社を設立。

1960

- 1960年
社名を「丸一鋼管株式会社」に改称。名古屋事務所を開設。
- 1961年
東京工場を新設。
- 1962年
東京・大阪両証券取引所市場第二部に上場。
- 1964年
東京・大阪両証券取引所市場第一部に上場。福岡事務所を開設。初の海外進出先としてシンガポールにマレーシア鋼管株式会社を設立。



▲東京オリンピックに使用されたマルチボール

- 1965年
堺工場を新設。
- 1966年
広島事務所を開設。名古屋工場を新設。上場。
- 1967年
日本初の連続亜鉛めっきコイル素材の「プレジック」パイプの実用生産を開始。



▲堺コンビナート工業地帯の堺工場
当時、周辺はとも未着工



銀座通りを彩る
丸一の角パイプ
(ガス灯タイプの
街路灯・交通
信号機)

HISTORY

丸一鋼管の歴史

当社の歴史は、1910年代に自転車部品の製造を始めた小さな町工場からスタートします。その後、素材から良いモノをつくりたいという創業者の想いのもと、鋼管専業メーカーへ転身。鋼管のリーディングカンパニーとして日本の経済成長と共に歩んできました。2000年以降は積極的に海外へ進出し、グローバルに成長を遂げています。

1970

- 1970年
北海道丸一鋼管株式会社(現・連結子会社)を設立。札幌事務所を開設。
- 1972年
大阪事務所を開設。インドネシア鋼管株式会社(ISTW)(現・持分法適用関連会社)が操業開始。
- 1973年
堺特品工場を新設。
東京第二工場(現・東京工場)を新設。
- 1974年
四国丸一鋼管株式会社を設立。
九州丸一鋼管株式会社を設立。
(ともに現・連結子会社)

- 1976年
沖縄丸一株式会社(現・非連結子会社)を設立。
- 1977年
名古屋第二工場(現・名古屋工場)を新設。橋工業株式会社と四国丸一鋼管株式会社を合併し、四国丸一鋼管株式会社橋工場として新発足。

- 1978年
本社を大阪市西区北堀江に移転。
カリフォルニア州にMaruichi American Corporation(MAC)(現・連結子会社)を設立。



▲アメリカでの石油開発ラッシュを追い風に
現地法人として設立されたMAC社

1980-90

- 1984年
名古屋工場を名古屋第二工場に統合し、同工場を名古屋工場と改称。
- 1989年
詫間工場を新設し、鋼板の表面処理加工を開始。
- 1995年
鹿島特品工場を新設。
- 1999年
北海道丸一鋼管株式会社の札幌工場を苫小牧工場に統合。



▲設立50周年記念パーティ(1998年)

2000-20

- 2000年
カスガ工業株式会社(現・非連結子会社)の株式を取得。広島事務所を開設。
- 2001年
丸一インベストメント有限公司(但し、2012年10月1日吸収合併済)を設立。
- 2002年
詫間工場で「AL-Z55」製造開始。
- 2005年
中国:丸一金属制品(佛山)有限公司(MMP)(現・持分法適用関連会社)を設立。
丸一インベストメント有限公司による
ウイニング・インベストメント・コーポレーション
(現・持分法適用関連会社)の株式を取得。
- 2006年
ベトナム:Sun Steel Corporation(現・Maruichi Sun Steel Joint Stock Company)(SUNSCO)(現・連結子会社)の持分を取得。

- 2007年
株式会社セイケイ(現・持分法適用関連会社)の持分を取得。
- 2008年
米国:MKK USA INC.(現・連結子会社)を設立し、同国のLeavitt Tube Company, LLC(現・Maruichi Leavitt Pipe & Tube, LLC)(Leavitt)(現・連結子会社)の持分を取得。
ベトナム:Sun Steel(Hanoi) Co.,Ltd(現・Maruichi Sun Steel(Hanoi) Co., Ltd.)(現・連結子会社)を設立。
- 2009年
株式会社アルファメタル(現・連結子会社)の増資を引き受け、子会社化。
インド:MARUICHI KUMA STEEL TUBE PRIVATE LIMITED(KUMA)(現・連結子会社)の持分を取得。
- 2010年
ベトナム:J-Spiral Steel Pipe Co.,Ltd.が操業開始。
- 2012年
メキシコ:MARUICHIMEX S.A. de C.V. (Maruichimex)(現・連結子会社)を設立。北上加工センター開設。

- 2014年
東京工場を東京第二工場へ統合し、同工場を東京工場と改称。
- 2015年
米国:Maruichi Oregon Steel Tube, LLC(MOST)(現・連結子会社)を設立し、同国のEvraz INC. NA社傘下のEvraz Oregon Steelの構造用鋼管事業を承継。
- 2016年
大阪工場を堺工場へ統合し、大阪工場を大阪倉庫と改称。
- 2018年
設立70周年を迎える。
本社、大阪事務所、営業部電材課、丸一鋼板株式会社本社、同大阪営業所を大阪市中央区難波の現在地に移転。
フィリピン:MARUICHI PHILIPPINES STEEL TUBE INC.(MPST)(現・非連結子会社)を設立。
- 2020年
コベルコ鋼管株式会社(現・丸一ステンレス鋼管株式会社)(現・連結子会社)の株式を取得。

丸一鋼管グループ国内事業所一覧

About

国内の丸一鋼管 事務所および工場

■ 本社 〒542-0076 大阪府大阪市中央区 難波五丁目1番60号 なんばスカイオ29階 TEL(06)6643-0101 FAX(06)6643-0103	● 福岡事務所 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 三丁目2番1号日本生命博多駅前ビル12階 TEL(092)411-1821 FAX(092)472-7401	● 詫間工場 〒769-1101 香川県三豊市詫間町詫間6883番地 TEL(0875)83-3301 FAX(0875)83-5901
● 札幌事務所 〒061-1112 北海道北広島市共栄151番地5 TEL(011)372-3136 FAX(011)372-3169	● 特品事業部・大阪特品営業部 〒599-8102 大阪府堺市東区石原町二丁目125番地 TEL(072)258-1858 FAX(072)259-6401	● 堺特品工場 〒599-8102 大阪府堺市東区石原町二丁目125番地 TEL(072)258-1858 FAX(072)259-6401
● 東京事務所 〒104-0031 東京都中央区 京橋二丁目2番1号京橋エドグラン25階 TEL(03)3272-5331 FAX(03)3275-2391	● 東京特品営業部 〒104-0031 東京都中央区 京橋二丁目2番1号 京橋エドグラン25階 TEL(03)6214-1001 FAX(03)6214-1002	● 鹿島特品工場 〒311-2434 茨城県潮来市島須3075番地27 潮来工業団地内 TEL(0299)64-6901 FAX(0299)64-6900
● 名古屋事務所 〒456-0054 愛知県名古屋市中熱田区 千年一丁目2番4号 TEL(052)651-7221 FAX(052)651-0101	● 東京工場 〒272-0127 千葉県市川市塩浜一丁目11番地 TEL(047)395-1201 FAX(047)395-0681	● 北上加工センター 〒024-0051 岩手県北上市相去町 山根梨の木43番152 TEL(0197)71-2301 FAX(0197)71-2302
● 大阪事務所(本社オフィス内) 〒542-0076 大阪府大阪市中央区 難波五丁目1番60号 なんばスカイオ29階 TEL(06)6643-5101 FAX(06)6643-5102	● 名古屋工場 〒490-1445 愛知県海部郡飛島村金岡14番地 TEL(0567)55-1101 FAX(0567)55-1104	
● 広島事務所 〒736-0055 広島県安芸郡海田町 南明神町3番72号 TEL(082)821-1901 FAX(082)821-1911	● 堺工場 〒592-8332 大阪府堺市西区石津西町16番地 TEL(072)241-0301 FAX(072)244-1401	

国内の丸一鋼管グループ各社

鋼管・鋼板の販売 丸一鋼板株式会社 ■ 本社 〒542-0076 大阪府大阪市中央区難波五丁目1番60号 なんばスカイオ29階	溶接鋼管の製造 四国丸一鋼管株式会社 ● 本社 / 四国工場 〒769-1101 香川県三豊市詫間町詫間2112番地48 ● 橋工場 〒599-8102 大阪府堺市東区石原町二丁目12番地 九州丸一鋼管株式会社 ● 本社 / 九州工場 〒869-0111 熊本県玉名郡長洲町名石浜12番地	シームレス鋼管の製造・販売 丸ーステンレス鋼管株式会社 ● 下関本社 / 下関事業所 〒752-0953 山口県下関市長府港町13番1号 ● 東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川五丁目9番11号 (大崎MTビル8F)
溶接鋼管・ボールの製造 北海道丸一鋼管株式会社 ● 本社 / 苫小牧工場 〒059-1364 北海道苫小牧市字沼ノ端134番地110 ● 札幌特品工場 〒061-1112 北海道北広島市共栄151番地5	鋼管の切断・加工 カスガ工業株式会社 ● 本社 〒547-0002 大阪府大阪市平野区加美東七丁目3番2号	鋼管・鋼材・電気資材・水道資材の販売 沖縄丸一株式会社 ● 営業所 〒901-2113 沖縄県浦添市大平388番地3
	自動車部品の製造・販売 株式会社アルファメタル ● 本社 〒822-0144 福岡県宮若市稲光850番地	

M K K I マルイチ 商号 丸一鋼管株式会社 商標  	資本金 95億9,515万2,375円 (2019年3月31日現在) 設立 1947年12月18日	M K K I MARUICHI STEEL TUBE LTD. HEAD OFFICE 29F Namba Skyo.1-60.5Chome.Namba.Chuo-ku.Osaka-shi.OSAKA 542-0076,JAPAN TEL:81-6-6643-0101 FAX:81-6-6643-0103 http://www.maruichikokan.co.jp/	
---	---	--	---